

# 自己の確立

植松 浩祥（龍祥）

UEMATSU Hiroyoshi (Ryusho)

本学にお世話になるにあたって、今までの作品を見返す機会を得た。公募展からグループ展に出品した、いわゆる「過去」の作品である。過去の作品、とりわけ作品を創り始めたころのものは、小さい頃の自分の話を聞かされるような気持になる。

先達の書家は、過去の作品をあまり見たがらないという話をよく聞く。すべて捨ててしまう、などと極端な言い方をされる方もいる。ものの言い方は様々であり、意味合いも微妙に違いがある。しかしながら、個展や回顧展などを拝見すると、その作家のルーツ、書作の変遷等を垣間見ることができ、大変興味深く、改めてその書の深さに圧倒される思いである。私達は日々、いかに自分の作品を創るかに苦心しているが、結論的には「書くこと」でしか見いだせないものと一喝されてしまう。

その過程の中で、過去の作品と向き合うことも重要であり、自分の来た道が間違っていなかったか。これからどうしていけばよいか。

古典はもちろん、先達の作品、言葉など学ぶものは余多ある。自分の作品を確立することは、まさに終わりなき道であり、大きな試練でもある。

掲載の作品は、第九回日展に出品したものである。なんとか型を作りたいと思って書いてみた。粗さが目立ち完成度はまだまだであるが、求める一つの表現である野性味を狙った作品である。

昨夜舟中行 月冷秋江遠  
 濛濛蘆荻花 欲掃愁無帚  
 寒山君忽遇 共酌楓亭酒  
 一鴈落長空 帛書今在否  
 君言懷袖無 合在佳人手

龍溪公

昨夜舟中行 月冷秋江口 濛濛蘆荻花 欲掃愁無帚  
 寒山君忽遇 共酌楓亭酒 一鴈落長空 帛書今在否  
 君言懷袖無 合在佳人手

232 × 70cm